

令和6年度第1回 岐阜市地域福祉推進委員会 議 事 録

1 開催日時

令和6年5月30日（木） 13:30～15:30

2 開催場所

岐阜市役所 庁舎6階 6-1会議室

3 出席委員（14名）

岐阜市小中学校長会
岐阜市身体障害者福祉協会
岐阜市医師会
岐阜市赤十字奉仕団
岐阜市青少年育成市民会議
岐阜市自治会連絡協議会
岐阜市社会福祉協議会
中部学院大学
岐阜市介護支援専門員連絡協議会
公募
岐阜市民生委員・児童委員協議会
公募
岐阜市老人クラブ連合会
岐阜県社会福祉士会

浅野 竜也
五十川 勝也
今泉 松久
上田 千衣子
江原 由美子
桐生 伸治
後藤 東洋士
佐甲 学
佐藤 有紀子
篠原 輝政
杉山 修二
高橋 誠司
棚橋 靖夫
吉田 麻美

（五十音順、敬称略）

4 議事次第

1 開会

- （1）あいさつ
- （2）委員長・副委員長の選出
- （3）諮問

2 議事

岐阜市の地域福祉の現状と課題について

3 報告

今後のスケジュールについて

4 閉会

あいさつ

5 議事概要

1 開会	
(1) あいさつ	
	(副市長あいさつ) (委員紹介)
(2) 委員長・副委員長の選出	
	(委員長に佐甲委員、副委員長に後藤委員が選出)
(3) 諮問	
	(副市長から委員長に諮問)
2 議事	
岐阜市の地域福祉の現状と課題について	
事務局	(「資料1 岐阜市の現状・課題等について」説明)
委員	・自治会加入率が低下している。社会福祉の観点からいくと自治会の加入の有無は関係ないが、自治会に加入している者が、幅広く手助けをするとなったときに、自治会加入していない者をなぜ助けなくてはならないのかというギャップが生まれつつある。この問題を解決するのが、今私どもが一番やらなくてはならないことである。 ・自治会を青少年育成市民会議、民生委員・児童委員との連携においては、なにかと守秘義務と言われ、情報交換がうまくいかない部分がある。一番の問題解決方法は自治会員を増やすことだと考えており、そのために岐阜市から自治会加入を進めるような活動をしてほしい。例を挙げると、ごみ処理問題について、自治会に加入していない人は個人で市に直接収集をお願いすることになるが、そのときにまずは自治会と相談を、と促してほしい。 ・自治会としても紙ベースだけではなく、ホームページを立ち上げるなど広報を進めていきたいと考えている。
委員	・担い手の育成と発掘の取り組みの中に、子ども福祉委員の育成とあるが、10年先、20年先に岐阜市を担っていくのは今の子どもたち、若者たちである。福祉教育だけで興味を持てるのか、やはり自分の地域に感動し、夢を持って未来に向かっていけないと難しいのではないかと。子どもたちに対して、将来、この地域のために頑張ろうと思ってもらうためには、地域の行事に参加してこそ地域のよさがわかるのだと思う。自分の親や近所の方が積極的に地域行事に取り組むことで、子どもたちもその姿を見て、郷土愛が産まれるのではないかと。将来、岐阜市から出たとしても、また岐阜市に戻りたくなるような社会にしていけるために協力していただきたい。
委員	・災害時に自分の力で避難することが難しい方に声掛けをしたい気持ちはあるが、個人情報保護が壁になり、進んでいかない。隣に住んでいる人がどんな人かわからない。福祉も含め、すべての生活において助け合いが必要であり、そのためにはご近所関係をもう少し密にしないとやっていけない。
委員	・こども食堂や、多世代交流を目的とした活動をしている。そのなかで、高齢者と子どもが一緒に活動することで、繋がりや居場所ができるのではないかと考えている。今課題に思っていることは、どうやって深いつながりを作るのかというこ

	とである。一度だけの参加で終わってしまわないよう継続するなかで、それぞれの価値を認め合うような交流が出来たらいいと思う。
委員	・福祉は進んでいると思っていたが、ある地域で、福祉施設への送迎バスが料金の値上げの相談もなく打ち切られたことがあった。突然打ち切られたような状況で、実際に困っている方がいらっしゃる。 ・日赤奉仕団では生活支援員という資格を取り、独居老人や身体が弱っている方に声をかけ、支援機関や地域包括支援センターに繋げているが、先程も話のあった個人情報の部分がネックになっていると感じる。
委員	・高齢化率が上がってくると、当然、医療支援、要介護の認定者も上がってくる。私達が支援に携わるなかで、介護保険に頼らなくても、地域の支え合いがあれば、もう少し元気に暮らして行けるような人たちがいると感じる。そういう方たちを埋もれさせないために、地域の取組の情報にアクセスできる環境が必要。ケアマネジャーができるだけ幅広い情報を持てるような体制をつくっていただきたい。
委員	・学校現場だけで見れば、子どもの姿は元気で変わりないように感じるが、家庭の状況が変わってきていると感じることはある。新型コロナウイルス感染症で収入が減ったということを保護者から聞くこともある。 ・PTAに入るか入らないかという話題もニュースで流れているが、ボランティアでなにかやるという時にも、ボランティアの数は減ってきているように感じる。親御さんも会社等で頼りにされる年代であり、仕事などで学校のことにまで手が回らない状況がある。 ・地域の高齢の方が登下校の見守り隊をやってくれているが、60歳を過ぎても働く方が増え、なかなか新たな担い手がない。 ・子どもを取り巻く環境は変化してきている。
委員	・自治会加入率が58%という話があったが、50%を切るのも目前であると考えられる。高齢世帯で郵便受けを毎日見ることをしなくなった方や、いきいきサロンにも顔を出さない方が多くいる。今後もそのような傾向は続くと思うが、そんな中で、地域福祉と言うものの、実際どのような解決策があるのかとも思う。 ・自治会加入率が下がると、公民館や防犯灯の維持が大変になる。何かがあったときに、自治会や社協への加入の有無で線引きはできないと思う。 ・市営アパートにおける自治会加入の義務付けができないか、重度の障がい者が校区の避難所を経由することなく、直接福祉避難所に行けるような仕組みができないかなどと思う。
委員	・診療所に来られた方が、福祉系の問題で相談をされることがある。地域の方には相談をする場所がまだまだ周知されていないと感じる。 ・高齢者は増えているが担い手は減っている状況である。 ・「場」づくり、「体制」づくりの意識調査の結果が下がっていることに驚いた。この成果指標のパーセンテージは下がっている一方で、重点項目の5事業以上やるという目標に対して5事業できたことを満足の行く結果と捉えてはいけないう。地域福祉推進計画は第1期、第2期とありそれぞれ取り組みが行われたが、第1期の結果はどうだったのか、知りたいと思った。
事務局	・第1期の資料については用意していないので、次回、お答えする。
委員	・人口が減ることや、世帯数が増える、単身者が増えることはわかっているが、地

	域によってかなりばらつきがあると思う。私の住んでいる地区は、人口が多く、若年層ではマンションやアパートに住む方が多い。一方で古くから住んでいる方は高齢化が進んでいる。県庁周りや駅前にマンションが増えたが自治会があるのは1棟だけである。管理会社に自治会をつくれなかと聞いたところ、結局は住民の意志なので管理会社からなにかすることはできないと言われた。1棟でも自治会ができると、100名近くが加入することになるので、大家や管理会社、管理組合は自治会加入運動を盛り上げてほしい。 ・先程、ちょっとした手助けがあれば自立した生活ができる高齢者は多いという話があったが、福祉サービスではなくても、例えば買い物については生協や配達サービスがある。他にもゴミ出しの問題があり、他の中核市では公的サービスとしてゴミ出しサービスをやっているの、岐阜市でも検討できるといい。
委員	・「人」づくり、「場」づくり、「体制」づくりの成果指標は維持ないし低下にもかかわらず、4つの重点目標は達成という結果には違和感がある。 ・自治会から役員を選ぶときに、それを重荷に思っ自治会をやめてしまう高齢者がいる。高齢化を考えれば役員等を免除するというのが自治会を繋ぎ止める重要な施策になるのではないか。 ・自治会員が減るからと言って自然に任せているのは自治会の怠慢である。小さな親切運動のような施策は5年前から行われているが、50地区のうち、6地区しかできていない。地域の中にこういう制度をつくっていく中で、自治会員であることのメリットや助け合いが浸透していくと思うので、岐阜市の全地区で取り組みが進むことが必要である。そのためには社協や高齢福祉課などがもっと大きく旗を振り、つくりやすい体制を整えて、地域住民がお互いに助け合う風土を地域に育てていくことが必要である。 ・地域包括支援センターや、福祉まるごと支援員の働き、成年後見センターの設立などは住民にとって大きな成果だと思う。せっかくつくった制度なので、みんなが使いやすく、窓口相談に行きやすい体制を整えると、さらに変わってくるのではないか。 ・助け合いの風土をつくるのはなかなか難しいが、福祉の施策がより進むことを望む。
3 報告 今後のスケジュールについて	
事務局	(「資料2 今後のスケジュール」説明)
4 閉会	
	(社会福祉協議会 常務理事 あいさつ)

－ 以 上 －